

第6期宮前区区民会議 第4回（仮称）地域福祉部会

【摘録】

日 時：平成28年11月28日 18:00～21:00

場 所：宮前区役所4階 第1会議室

出席委員（敬称略）：中里、川田、青柳、老門（聰）、大久保、小田、葛西、砂川、滝本、中村
（10名）

欠席委員（敬称略）：椿（1名）

傍聴人：0名

資 料：次第

資料1 第6期宮前区区民会議委員名簿

資料2 第6期審議スケジュール案

資料3 宿題シート

資料4 宿題シート概要版

その他 第3回地域福祉部会摘録（案）

平成27年度認知症サポーター養成講座実績表

セブンイレブンの包括協定報道発表資料

■ 議題

1 前回までの討議の振り返り（公開）…第3回地域福祉部会摘録（案）

- ・区民と行政・活動団体等を近づける仕組み
 - ・区民や活動団体のお困りごとを聞いてつなげる仕組み
- について、各委員が考えてきたアイデア・企画を発表し合い、討議を進める

2 宿題の発表（公開）…宿題シートへの記載内容のターゲット別に順に発表を実施

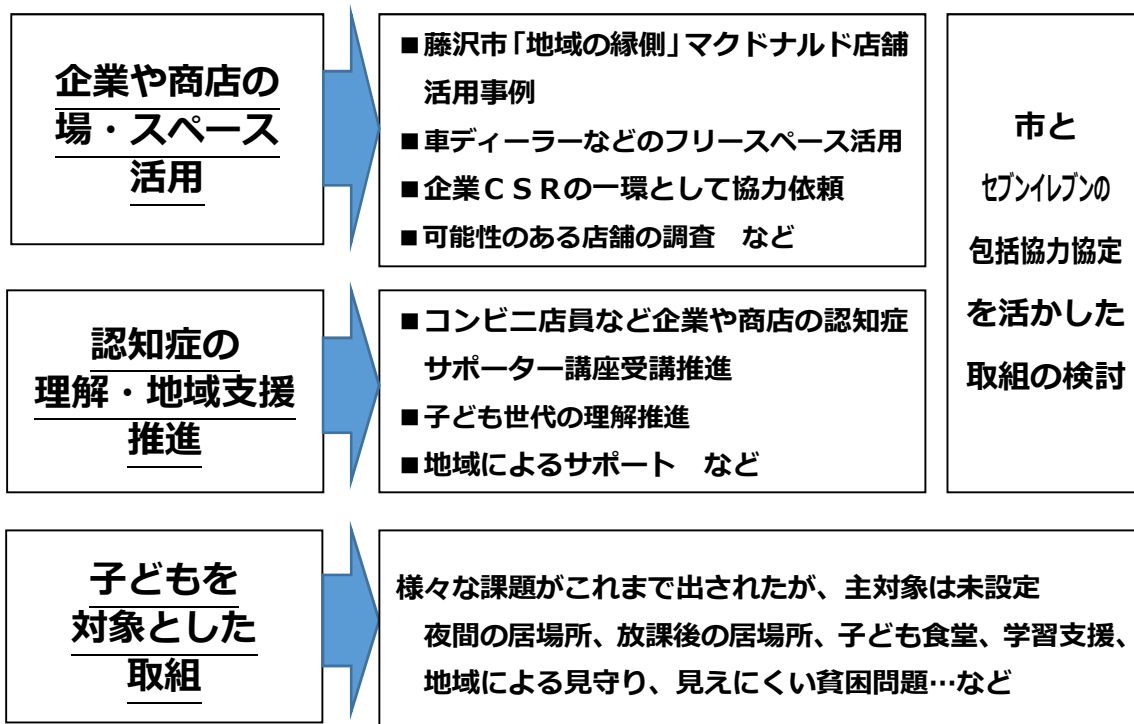
3 審議テーマ・ターゲットの絞り込みに向けた討議（公開）

※2・3に関する主な意見、その整理は次ページ以降参照。

4 今後の予定（公開）

- ・第2回企画部会（委員長・副委員長・部会長のみ）：12月22日（木）18時～
- ・第4回全体会：平成29年1月13日（金）18時～

審議テーマ・ターゲットの絞り込み案（以下の3つ）



その他の話題・課題（各委員の提案）など

<p>■ 高齢者の地域見守り 見落とされる高齢者（中村） 配達業者との連携（砂川）</p>	<p>■ 地域要望の吸い上げ 小さなことから安全・安心のまちづくり（砂川）</p>
<p>■ 高齢者の仲間づくり 趣味等を活かした場（砂川）</p>	<p>■ 商店街との連携 商店街PRも兼ねた連携（青柳） 子育て応援団の事例（葛西）</p>
<p>■ 福祉活動団体の連携・交流 団体へのお墨付き（葛西） 情報交流・ネットワーク（葛西） 行政担当者と繋がる場（葛西） 徒歩圏地域でのつながり（滝本） 団体の登録・情報整理（葛西）</p>	<p>■ 既存施設の有効活用 商店スペース、空き家・集会所など（大久保） 区役所レストランの休日活用（大久保） 市民館ギャラリー活用事例（中村） 既存施設のシェア利用推進（滝本） 場と合わせて「出番」の創出（滝本）</p>
<p>■ 地域とのつながりづくり 川崎都民と地域（大久保） 自宅に近い場の形成（大久保） 技術・知識を持つ人の活用</p>	<p>■ その他 マップづくり（中里ほか） 循環バス（中村） ほっとやすらぎステーション拡大（川田→取り下げ）</p>

※各意見の詳細その他は次ページ以降参照

討議に先立つ視点整理（コンサル）

- ・ 「福祉」「人と人をつなぐこと」が、この部会の審議テーマの根底に流れるもの
- ・ 取組提案の実現性のある程度考慮しながら進める
- ・ 商店会、企業など、新たな層を取り込めれば、新たな展開に繋がるのではないか
- ・ 4回目の部会ということで、テーマ・対象の絞り込みを図りたい。

各委員宿題シート記載内容と意見交換

①子ども

■ 新たな放課後の子どもの居場所（提案者：小田委員）

- ・ わくわくや寺子屋等の場に加えた、新たな「放課後の子どもの居場所」の形成。安全管理等の課題はあるが、ボランティアによるゆるやかな運営方法を探る（小田委員）
- ・ わくわくと寺子屋をはしごする子どももいる。既存の場の整理も必要な中、更に新たな場の形成は難しいのではないか。（大久保委員）
- ・ 学校と地域、共通で子どもを見るソーシャルワーカーが居る場所が地域にあると良い。（滝本委員）
- ・ 学校と地域をつなぐ手段があれば良いのではないか。（中里部会長）
- ・ わくわくに来られない子や、上級生になると「行きたくない」と言う子がいる。上級生も居られるような居場所にしたい。（葛西委員）

②高齢者

■ 認知症の理解推進（提案者：老門委員）

- ・ 認知症の理解推進。コンビニや商店会の協力、警察と福祉の連携などで、認知症にやさしい地域づくり。独居の認知症の方が地域で長く暮らしていける様。（老門委員）
- ・ お店を訪れた認知症の方が不審者通報されてしまう事がある。適切な対応（穏やかな話しかけなど）をとれば、危険な事はない。子ども達にも伝えていきたい。（老門委員）
- ・ 市内の認知症サポーター講座の開講実績表（資料）を見ると、家族団体や福祉団体での実績が多く、一般企業等ではまだ実績が少ない現状がある。（事務局）
- ・ セブンイレブンと川崎市が地域福祉等における包括協力協定を締結しているので、何か具体的な協力依頼をしてみる方向性も考えられる。（事務局）
- ・ コンビニで不審者扱いされた認知症の方、警察ではなく地域包括に連絡したことから、後のフォローに繋がった例を聞いた。店舗の方の理解が重要だと感じた。（中里部会長）

■ 高齢者の地域見守り・配達業者等との連携（提案者：中村委員・砂川委員）

- ・ 見落とされている独居高齢者を把握し、見守りにつなげるしくみづくり。
- ・ 民生委員もいつも地域にいられるわけではない。（中村委員）
- ・ 配達業者と連携できないか。家の中の様子なども知っている。（砂川委員）

■ 高齢者の仲間づくりの場の形成（提案者：砂川委員）

- ・ 老人会には入りたくないが、麻雀が好き、囲碁が好きな方がいる。ご婦人方から編み物教室の要望も聞いた。趣味を活かして触れ合う場から笑顔が生まれる。(砂川委員)
- ・ 自宅により近い場があれば、人が集まるのではないか。(大久保委員)

③福祉活動団体

■福祉活動団体の認定・交流の場の形成（提案者：葛西委員）

- ・ 38年もの実績がある団体が区や他団体とつながっておらず、菅生分館の会場を取りにくくなり苦労している。遊びで施設利用している団体と区別して欲しい。(葛西委員)
- ・ 新しく頑張っている団体にお墨付きを与えたい。助成金情報を渡しても、活動が認知されていないと思っており、助成対象になるか不安を感じている。(葛西委員)
- ・ バザーなどの情報がなかなか入って来ず、口コミだよりになっている。(葛西委員)
- ・ 公文などの施設への意見の言いづらさを感じている。(葛西委員)
- ・ 区民会議で集めて活動団体を登録・整理、異業種交流会の様な場を企画して交流。困り事を聞いて、つなげる。区役所の各担当者とも直に話せる場になると良い。(葛西委員)
- ・ 子支連ほどの頻度（2か月に1回）でなくて良いが、定期的集まり、情報が得られ、他の団体や行政の担当者と繋がる場の形成。(葛西委員)
- ・ 既存の活動の認知度の向上。知る機会がない。多様な場が必要。(大久保委員)
- ・ 分野ではなく、徒歩圏の地域の中で繋がることが重要ではないか。(滝本委員)
- ・ ボランティアが情報共有・交流できるネットワークの形成。

④地域とのつながりづくり

■地域とのつながりづくり（提案者：大久保委員）

- ・ 川崎都民と地域に長く住む人との交流、区民と行政を繋ぐ方法。(大久保委員)
- ・ ママさん、高齢者、認知症などの予備軍の方々に「この地域に住み続けると良い」と思ってもらえるように。過去のアイデアや提案も拾い上げながら。(大久保委員)
- ・ いろいろな技能や知識を持つ人がわかるような場。(大久保委員)

⑤地域の細かい要望から安心・安全のまちづくり

■地域の細かな要望の吸い上げ・解決（提案者：砂川委員）

- ・ 不便や不安を感じている区民の声を吸い上げ、小さなことから反映しながら、安心・安全な地域づくりに取り組む(砂川委員)
- ・ 街路樹の根で歩道がデコボコになっている例など、危険な箇所はまだまだある。(砂川委員)
- ・ 区民の側に立って考え、少しずつでも答えを出す。そうでないと、毎回同じ事を言われてしまう。(砂川委員)
- ・ 介護施設を運営されている方から介護士募集で困っていることを聞き、店内に募集チラシ

シを掲示して協力したら、2か月後に応募があり、採用に繋がった。(砂川委員)

⑥商店街・企業等

■商店街との連携（提案者：青柳委員）

- ・ 地域の生活に大切な商店街と連携する。商店街のPRも兼ねる。(青柳委員)
- ・ 「子育て応援だん」の「子育て支援店（授乳やオムツ交換の場の提供など）」の例など、協力依頼の際に、区のバックアップがあるとかかなり違って来る。(葛西委員)

■企業と連携した居場所・交流の場づくり(提案者：中里部会長)

- ・ 企業や営業店舗を活用した宮前区独自の取組はどうか。(中里部会長)
- ・ 藤沢市のマクドナルドでの取組事例。キッズコーナーを活用して週1回、場の形成をしている。宮前区では246や初山にマクドナルドがある。(中里部会長)
- ・ 自動車のディーラーなどのフリースペースは平日結構ガラガラである。お借りして何かできないか。(中里部会長)
- ・ 町田の市民(福祉)交番の事例が参考。(中里部会長)
- ・ まちの縁側的な発想。週に数日でも地域の人がそこに集まり、相談したり、お茶を飲んだりして、困り事は活動団体につなぐ。(中里部会長)
- ・ 町内会館などの施設に付加価値を付ける方向性もあるが、難しさも感じている。町会の規模が大きすぎて、回覧なども周ってくるのが遅い地域がある。(中里部会長)
- ・ 拠点を作っても、本当に来てほしい人が来ないことが往々にしてある。(葛西委員)
- ・ 家から出たくない、関わりを持ちたくないという方が課題。(小田委員)
- ・ 行政の窓口機能もあると良い。人を引っ張り出してくれる人同士をまずつなげた方がよい。(葛西委員)

⑦既存施設の有効活用

■既存施設の有効活用（提案者：大久保委員）

- ・ 商店の空きスペース、空き家、集合住宅の集会室などの活用を活性化できるしかけが何かないか。固定資産税の免除や補助など何か優遇制度もできると良い。(大久保委員)
- ・ 場を舞台に、区民会議がファシリテーターになって人や組織を繋ぐ。(大久保委員)
- ・ 篤志家を頼りにした取組は一代限りとなる例も多い。駒込の空き家活用のたまり場を視察したが、家主の方は私の代で終わりだとはっきりおっしゃっていた。(川田委員長)
- ・ 区役所のレストランの土日活用などできないか。図書館は開館している。市民館のイベントと併せたり、イベントやテーマ別の活動の場として活用する。(大久保委員)
- ・ 市民館では、土日に様々なイベントが開催されているが、食べるところが周囲にあまりない。レストランが開いていると良い。(葛西委員)
- ・ 区役所のレストランは、本来は職員の福利厚生施設であり、値段設定など様々な制約の中で運営されている。有効活用には現実的な障害も想定される。(事務局)

- ・ 文化協会で市民館ロビーをギャラリーとして活用した。多摩区の例をヒントに、交渉した結果だ。上手に使える場所はまだまだあるだろう。(中村委員)
- ・ 市民活動支援コーナーを発展活用。個人でも気軽に立ち寄れる場所、団体同士つながれる場にできないか。専任の相談員など置けないか。(青柳委員)
- ・ 市民活動支援コーナーは登録団体でないと利用しにくい雰囲気がある。(中里部会長)

■ 既存施設のシェア利用 (提案者：滝本委員)

- ・ 複数団体の施設共有利用の申込み枠を儲けて、優先度を高くしてはどうか。(滝本委員)
- ・ 公園の共有。小さなマルシェ、市場。意識をもって出会える仕組みづくり。例：野球チームと飲食店、子育て団体と読み聞かせボランティアなど(滝本委員)
- ・ 場にに合わせて出番も用意する。子育て中のお父さんには、「交流会」のお誘いより、具体的なお手伝いを依頼した方が来ていただけ、仲良くなれる。(滝本委員)

⑧その他

■ マップづくり (提案者：中里部会長)

- ・ 拠点作りと合わせて、拠点周知も目的としたマップづくり。散歩コースなども掲載して、様々な取組をつなげていく。(中里部会長)
- ・ 福祉的な場所を可視化する。マップづくりと合わせて拠点にステッカーを貼り、協力店や団体がつながるようにしたい。(川田委員長)
- ・ 紙ベースでのマップは限界もある。対面での出会いにつなげたい。『とことこ』もそうだが、紙媒体を読み込んで連絡にまで至る人は少ない。(葛西委員)
- ・ まずは既存のものを落とし込む。「地域でやっている小さいカフェやサロンも含めた全ての福祉の情報をデータ化したい」(葛西委員)
- ・ 地域みまもり支援センターで取組検討中。各地域の場所・人材・団体等の資源やその分布を可視化しようという動きがある。(事務局)
- ・ 地域の有志グループによる小さいサロンなども掲載したい。行政だけでは漏れてしまう恐れがある。(中里委員)
- ・ 外に出たがらない人を連れていきたくなる様な、支援側向けのマップ。(小田委員)

■ 循環バス (提案者：中村委員)

- ・ 駅に行く循環バス。高齢化や山坂の多い宮前区の10年後を考えると必要。(中村委員)
- ・ 区民会議でなく町連等から要望したほうが、可能性がある。区民会議では実効性のあるものを考えたい。(川田委員長)
- ・ 中長期的視点から提案できないか。ニーズが真なら東急・市以外の民間事業者を呼び込んで良い。(大久保委員)

■ 「ほっとやすらぎステーション」の拡大 (提案者：川田委員長→取り下げ)

- ・ 第5期提案の「ほっとやすらぎステーション」の再検証と拡大。(川田委員長)
- ・ 区役所で取組の検討・調整を進めている。代表窓口として区役所地域みまもり支援セン

ターの連絡先を記載。今後、経過を報告していきたい。(事務局)

審議テーマ・ターゲットの絞り込み

■ 前談

- ・ 「場の形成」と「活動団体のネットワーク」は、每期、話題にはなるが、漠然とし、具
体性に欠けたまま終わる傾向がある。対象の絞り込みがある程度必要だ。(コンサル)
- ・ 課題の深刻制、切迫性、緊急性などを考慮して、ターゲットを絞り込みたい。(事務局)
- ・ 活動団体一般を対象にすると、数が多すぎて時間が足りない。(川田委員長)
- ・ 委員を通じた団体をまず対象にすれば、時間はかからないのではないか。(葛西委員)
- ・ 「認知症」というのはい良いターゲットになり得ると思う。(川田委員長)
- ・ 川崎市の中で宮前区が一番子どもが多いが、子どもが忘れられがち。(葛西委員)
- ・ 市民館のロビーでカフェがたくさん開かれているが、そのせいで子ども連れの親がロビ
ーを利用できないこともある。(中村委員)
- ・ 高齢者と子どもをつなげることが考えられれば良い。(中村委員)
- ・ 各地域でつながりの取り組みができるのが理想だ。個々のマッチング。(川田委員長)
- ・ 場の確保が必要。土橋カフェは高齢者 90 人ほど、子育てサロンも多いときは 45 組く
らい来る。それらを一緒にするとパンクしてしまう。(老門委員)
- ・ 今までの議論に共通しているのは「つながり」(青柳委員)
- ・ 「つながりが共通点」が結論だと堂々巡り。前回の結論と同じだ。(コンサル)

■ 「認知症の理解推進」案

- ・ 認知症理解推進の提案と市とセブンイレブンの協定で何かできないか(中里部会長)
- ・ コンビニの店長や店員に認知症サポーター養成講座を受けてもらうなど、理解を深めて
いく提案はよいと思う。(川田)
- ・ 最近、セブンイレブンで認知症患者とのトラブルを 2 件聞いた。店長には理解があつて
も従業員にまで理解が浸透していない現状がある。(老門委員)
- ・ 認知症のドライバーによる事故事例が最近増えてきている。カーディーラーや自動車の
営業所等とタイアップして認知症に対する啓発を行ってはどうか。(中里部会長)
- ・ 認知症は、高齢者だけの問題ではない。若年の方も増えており、また子どもでも、いつ
自分の親や親戚が認知症になるかわからない。認知症は子どもから高齢者まで一緒に取
り組めるテーマだ。(川田委員長)

■ 「企業や商店との連携」案

- ・ 新しい視点として、「企業とつながる」が出たと思う。企業と連携できれば、話題性も高
そうだ。企業も CSR に力を入れており、協力があおげるのではないか。(中里部会長)
- ・ セブンイレブンとの包括連携協定を前提とした取組は市レベルではなく、区レベルでも

- 可能なのか？（大久保委員）→可能。働きかける価値はあると考えている。（事務局）
- ・ セブンイレブンを地域の福祉交番として捉えてはどうか。セブンイレブン以外にも広げていけると良い。（葛西委員）
 - ・ セブンイレブンは既に連携協定があり、声をかけやすいので、まず名前が挙がってきている。（川田委員長）→無茶なお願いでなければ、話を聞いていただけるルートがあると考えて良いのではないか。（コンサル）
 - ・ 店の空きスペースの活用に向けて、実際の場所の調査をしてはどうか。店にも区民にもメリットがある形につなげたい。（葛西委員）

■ ターゲットの絞り込みについて

- ・ 「高齢者と子ども」という案もある中で、対象を限定するのはどうか。（大久保委員）
- ・ 対象を定められず、話が総花的になってしまっている印象がある。一旦対象を決め、そこから、検討を深めたり、広げていってはどうか。（事務局）
- ・ 子どもも高齢者も障害者も、全ての人が関われるような何かを企業にお願いする発想にはならないか。（葛西委員）
- ・ 主体と目的がはっきりしていないと企業等の協力も得にくい。「誰をターゲットに何をしたいのか」に賛同してもらう必要がある。（事務局）
- ・ 何を「目的」に企業に頼むのか、明確化する必要がある。「主体」によってお願いする店や企業も違ってくると思う。（川田委員長）
- ・ 「〇〇のために企業を探す」のではなく「ここに店があるから利用するにはどうしたらいいか」と考えるほうが良い。場所があるからこそ色々なことができる。（葛西委員）
- ・ 企業と福祉をつなげるなら、企業側にもメリットが無いといけない。（葛西委員）
- ・ 今は仮説でもよいから設定し、そこからうまくいけば他の主体にも広げていってはどうか。（事務局）

■ 「子ども」案

- ・ やはり子どもをテーマに考えたい。部会当初の議論の中心は子どもだったはず。子どもが住みよいまちでなければ、まちが発展していかない。子どもと高齢者どちらかを選ぶなら私は子ども。もっとよく話し合っただけでいい。（葛西委員）
- ・ 子どもと高齢者を分けないといけないのか。（青柳委員）
- ・ もう子どもをテーマにしてはどうか。確かに高齢者を優先しがちな感じが宮前区にはある。子どもが住みやすい、子育てしやすいまちにしていったほうがよい。（大久保委員）
- ・ 子どもに関しては、放課後居場所、貧困、子ども本人、親など前回までに様々な意見が出たが、子どもの中でも何を中心にするのか、はっきりさせる必要がある。（コンサル）
- ・ 子育てと親の介護のダブルケアの問題もある。子どもの事を考えれば、高齢者のことも考えることにつながる。（滝本委員）

まとめ

以下の3つをテーマ・ターゲットに次回以降の審議・調査を進める。

- 1. 企業や商店の場・スペースの活用**
- 2. 認知症の理解の促進（商店・企業との連携などによる取組）**
- 3. 子どもを対象とした取組**

※ただし、3については、まだ絞り込みが必要。子どもをテーマにしたい委員は、子どもの何をテーマにしたいのか、次回までに意見をまとめることとする。事務局でもこれまでの意見の整理を図る。

(以上)